

【平成17年度専修学校教育重点支援プラン事業】

事業名	「歯科衛生士のための医療情報管理高度教育プログラムの開発と実践」		
学校法人名	学校法人 歯研会学園		
学校名	新東京歯科衛生士学校		
代表者	中村 道雄	担当者・連絡先	都 智子 新東京歯科衛生士学校

<事業の概要>

歯科医院は小規模なものが多く、大規模病院のように医療事務の専任職員をおくことができない。そのためレセプト（診療報酬明細書）作成などの医療保険事務を担当できる歯科衛生士が求められている。また、平成18年1月19日にIT戦略本部が公表した「IT新改革戦略－いつでも、どこでも、誰でも恩恵を実感できる社会の実現－」には、「21世紀に克服すべき社会的課題への対応」の一つ目の課題として「ITによる医療の構造改革」が挙げられており、「医科・歯科・調剤レセプトの完全オンライン化による事務経費の削減と予防医療への活用」（遅くとも2011年度（平成23年度）当初から原則として全てのレセプトについてオンラインで提出及び受領しなければならない、など）が国のIT戦略の重要課題とされている。歯科医療の現場で働く者たちにとって、ITの基礎技能は不可欠なスキルになるであろう。

本事業では、歯科医師および歯科衛生士、歯科医療事務の専門家、情報管理の専門家、そして歯科衛生士養成学校の教職員が協力し、医療保険制度等の体系的理解とITを活用した情報管理－いわゆる医療事務に個人情報保護等へも配慮できるレベルの情報管理ができる知識とスキルを加え、歯科医療の現場で即戦力として求められる人材を養成する高度教育プログラムを開発した。さらに、その一部を短期教育コースとして編成し、現役の歯科衛生士や歯科衛生士を目指す学生を対象とした実証講座を行い、その効果についても検証した。

(1) 事業実施スケジュール概要

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施委員会		○	○		○		○		○	5回
分科会		○	○	○	○		○	○		6回
ニーズ調査		←→								
教育プログラム開発		←→								
普及講演会			○	○	○	○	○			5回
実証講座				←→						
事業報告会									○	1回

(2) ニーズ調査、実態調査について

アンケートでは、歯科医師に対しては医療事務を含め、院内での業務がどのように行われているか実態を調査し、どのような業務（役割）を歯科衛生士に求めるかというニーズを探ることを主な目的とし、歯科衛生士に対しては現状の業務内容とスキルアップへのニーズを探ることを主な目的とした。そして、これらのニーズ調査の結果を、3つの分科会の委員に周知し、各分野の教育プログラム構築に反映させた。

(3) 実証講座

① 実証講座（第1回：平成17年11月8日～平成17年12月22日実施）

1回目の実証講座では「テキストおよび講座の流れを確認すること」を課題とし、演習内容の検証、実習方法の検証などを行った。ほとんどの講座を、新東京歯科衛生士学校にて実施しているが、コンピュータを利用した実習については、事業実施協力校である中央医療歯科専門学校にて実施している。（下表の塗色部分は中央医療歯科にて実施）

② 実証講座（第2回：平成18年1月14日～平成17年2月18日実施）

2回目の実証講座では、第1回の結果を踏まえ、一部、講座名を変更し、講座内容およびテキストにも修正を加えた上で「医療保険制度等の体系的理解とITを活用した情報管理—いわゆる医療事務に個人情報等へも配慮できるレベルの情報管理ができる知識とスキルを加え、歯科医療の現場で即戦力として求められる人材」を養成できる高度教育プログラムの一部として相応しい内容となっているかを検証するために、講座および受講者アンケートを実施した。

	15:00 ～ 18:00	
日付	講座名	講師名
1/19	ヘルスプロモーション概論	宮田先生
1/26	ヘルスプロモーション概論	宮田先生
1/31	HTML基礎演習	八木先生
2/2	医療倫理とボランティア	宮田先生
2/7	医療のIT化	田辺先生
2/9	リスクマネジメント2	八木先生

	9:30 ～ 12:30		13:30 ～ 16:30	
日付	講座名	講師名	講座名	講師名
1/14	歯科医療関連法規1	福原先生	医療保険制度2	福原先生
1/28	医療コミュニケーション	新井先生	リスクマネジメント1	藤木先生
2/3	HTML基礎演習	八木先生	情報セキュリティ	田辺先生
2/4	歯科医事紛争(医療コミュ)	長田先生	医療保険制度2	新原先生
2/11	WORD基礎演習	八木先生	EXCEL基礎演習	八木先生
2/18	社会保障制度	山内先生	医療保険制度1	山内先生

<成 果>

(1) アンケート調査について

- 歯科医院で実施される検査は予防に結びつくものであるにもかかわらず、あまり実施されていないということから、検査を行う歯科衛生士の数が不足しているという実態がわかった。
- 「歯科衛生実地指導（小児患者および歯周疾患患者）」では現状でも80%以上の歯科医

師が歯科衛生士に任せていると回答しており、まさに歯科衛生士の仕事と認識されている。

- 「入院患者に対する口腔ケア・指導管理」や「退院後の口腔ケア・療養指導」のように、現在、看護師が業務を担当している領域についても、歯科医師側からみた場合には、歯科衛生士の業務にしてほしいと考えているようである。
- 診療室の事務・管理の中で、「スタッフの指導管理」と「患者・家族との相談・対応」について、現状は歯科医師自身が担当しているとの回答 60%ほどであるが、今後期待する業務実施担当者として、歯科衛生士の割合が急増している。これらの業務を担当し、また自信を持って進めていくためには、「医療におけるマネジメント（管理）」や「医療コミュニケーション」などを学び、身につけることが必要となるだろう。
- 歯科衛生士にどのような研修を受講させたいかというニーズ調査の結果、予防・治療に関する技術など、歯科医療専門家としての専門分野の研修だけでなく、カウンセリングや心理学など、患者とのコミュニケーションを円滑にするための知識・技術の習得を期待していることがわかった。
- 「レセプト事務」や「コンピュータ入力事務」を歯科衛生士に任せているという回答は少ない。歯科衛生士が、こうした事務処理をもこなせるようになるためには、IT リテラシーなどの基礎教育科目をカリキュラムに組み入れ、アピールしていくことも必要であることがわかった。

(2) 医療情報管理高度教育プログラムの作成について

- 歯科医師および歯科衛生士、歯科医療事務の専門家、情報管理の専門家、そして歯科衛生士養成学校の教職員が協力し、医療保険制度等の体系的理解と IT を活用した情報管理－医療情報管理高度教育プログラムを開発した。
- 法律・行政実務分科会、開業運営支援実務分科会、IT 基礎技能分科会という 3 つの分科会にて、それぞれの分野の医療情報管理高度教育プログラム (54 時間×3 分野＝162 時間) を作成した。
- さらに、その一部を短期教育コースとして編成 (18 時間×3 分野＝54 時間) し、現役の歯科衛生士や歯科衛生士を目指す学生を対象とした実証講座を 2 回行い、その効果についても検証した。

(3) 実証講座について

- 社会保障制度の全体像について、概ね理解させることができた。また、保険事業全体の流れを理解することの必要性についても理解させることができた。
- 歯科衛生士の医療行為を診療録でどのように記載するべきなのかを実例で説明し、診療報酬請求についても理解を深めることができた。
- 口腔ケアの重要性や全身疾患への影響について理解させ、ヘルス・プロモーションに関心を持たせることができた。
- 会話をする際にはアイコンタクトや傾聴の姿勢が重要であることを理解させ、院内コミュニケーションに対する前向きな姿勢をつくらせた。
- 院内感染や個人情報漏洩などのリスクから患者さんを守る事は、自分を守る事につながっているのだということを意識させることができた。
- IT 基礎技能が、歯科衛生士にとって有用であるということを理解させることができた。
- 実習をおこなうことにより、「自分にもできる」という感覚を持たせることができた (心理的障壁の克服)。